「考え，議論する道徳」の充実を目指して
～自己の生き方を考え，他者と豊かに関わり高め合う児童生徒の育成～

十島村立諏訪之瀬島小中学校

1　研究のねらい

学習指導要領改訂に伴い，「特別の教科　道徳」が平成３０年度から小学校で，平成３１年度から中学校で全面実施となった。学習指導要領の「特別の教科　道徳」の目標には「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため，道徳的価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え，自己（人間として）の生き方についての考えを深める学習を通して，道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てる。※（　　）内は中学校」とある。このことについて，「今までの道徳とどう違うのか」「評価はどのようにすればよいのか」という疑問が出てくる。本校の校内研修の中でも，「実際に道徳の授業をどのように行っていけばよいのか」という意見が出され，今年度「特別の教科　道徳」について研究実践することにした。

学習指導要領解説「特別の教科　道徳」の中では「発達の段階に応じ，答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童・生徒が自分自身の問題として捉え，向き合う『考える道徳』，『議論する道徳』へと変換を図るものである」と示されている。このことを踏まえ，「考え，議論する道徳」についての研究を行うことで，「道徳の授業を充実」させ，「自己の生き方を考え，他者と豊かに関わり高め合う児童生徒の育成」ができるのではないかと考え，この研究テーマを設定した。

2　研究の概要

（１）校内研修において，研究組織を作り，全職員で共通理解・共通実践する。
（２）「特別の教科　道徳」の在り方を学び，「考え，議論する」道徳の実現を目指した授業づくりをイメージし，研究の目標を共有する。
（３）研究授業を年７回実施し，授業研究を行い，今後の授業の見直し・授業づくりの検討を行う。
（４）道徳の授業に関する掲示板，教材・教具を作成し，活用する。

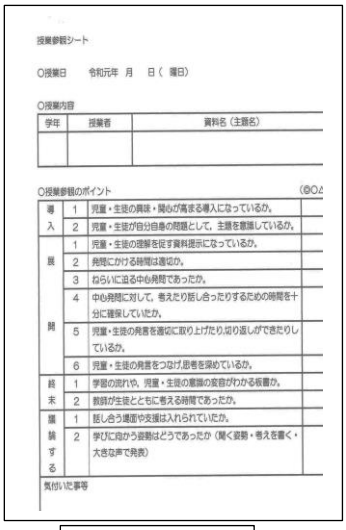
3　研究の内容

（１）「考え，議論する」道徳授業改善
（２）「自己の考えを振り返ることができる」環境整備

4　研究の実際

（１）授業参観シート・授業参観の視点作成

研究テーマを実践するにあたり，授業を改善していくために授業参観の観点を検討し，授業参観シートを作成することにした。これは，参観する側が明確な視点を持って授業参観をすることにより，授業改善のポイントが明確にわかるようにすることを目的としている。また，参観の観点を作成することで，授業者は，授業の組み立てを意識することもできる。本校では，この授業参観シートを使い，授業改善に取り組んだ。うした観点をもとに授業参観を行っていくことにした。


授業参観シート

○授業日　令和元年　月　日（　曜日）

○授業内容

学年	授業者	資料名（主題名）

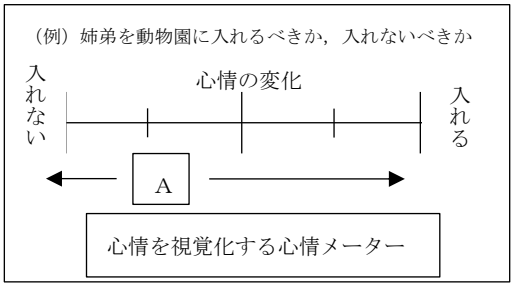
○授業参観のポイント　（◎○△

導入	1	児童・生徒の興味・関心が高まる導入になっているか。	
	2	児童・生徒が自分自身の問題として，主題を意識しているか。	
展開	1	児童・生徒の理解を促す資料提示になっているか。	
	2	発問にかける時間は適切か。	
	3	ねらいに迫る中心発問であったか。	
	4	中心発問に対して，考えたり話し合ったりするための時間を十分に確保していたか。	
	5	児童・生徒の発言を適切に取り上げたり，切り返しができたりしているか。	
	6	児童・生徒の発言をつなげ，思考を深めているか。	
終末	1	学習の流れや，児童・生徒の意識の変容がわかる板書か。	
	2	前時が生徒とともに考える時間であったか。	
振り返る	1	話し合う場面や支援は入れられていたか。	
	2	学びに向かう姿勢はどうであったか（聞く姿勢・考えを書く・大きな声で発表）	

気付いた事等

（２）児童・生徒の心情を視覚化するための「心情メーター」

「心情メーター」は，教材の登場人物と自分自身の考えを比較して，視覚的に捉えるものである。教材に描かれている言動を基に，登場人物の行動・気持ちを照らし合わせてメーターのどの辺りに自分の気持ちが当てはまるかを表す。



心情を視覚化する心情メーター

その後，他の意見を聞いたり，話し合ったりした後，自分の気持ちを示すことで気持ちが変わってきているか，変わらないかを視覚的に認識することができる。授業の最後には，自分の気持ちがどの辺りにあるか表すことによって，学習を通しての心情の変化を見ることができるようにした。

また，同じような効果を期待するものとして円グラフで登場人物の気持ちに対して自分も「そう思う」「そう思わない」という気持ちを視覚的に表せるようにした。

心情メーターを使った授業の様子

（３）発問の工夫

教師による発問は,児童生徒が自分との関わりで道徳的価値を理解したり,自己を見つめたり,物事を多面的・多角的に考えたりするための思考や話し合いを深める上で重要である。教師の発問によって児童・生徒の問題意識や疑問などが生み出され，多様な感じ方や考え方が引き出されるからこそ，私たち教師は考える必然性や切実感のある発問，自由に思考を促す発問，物事を多面的・多角的に考えたりする発問などに心掛けなければならないと考える。

（４）「こころの木」の掲示

小学校，中学校それぞれの校舎の階段に「こころの木」を作り，それぞれの道徳の授業での感想などを掲示し，普段の生活の中で道徳の授業で書いたり考えたりしたことを共有する。

こころの木の掲示

道徳の授業での話合い

5　研究のまとめ

（１）成果

○　発問を発問例から分類し，授業案を作る際に発問の工夫を行うことにより，児童・生徒が「深く考える」ことを促すことができた。また，「心情メーター」を使うことにより，児童・生徒自身が自分自身の考え方の変化を自覚することでより深く考えられるようになった。

○　研究授業を行う際に，授業参観の視点を示すことにより，それぞれの授業において改善点が明確になり，次に向けての授業改善につながった。

（２）課題

●　「議論する」道徳ということに関して，極小規模校（１～３人の学級）においてどのように取り組んでいけばよいか検討していく必要がある。

6　今後の取組

離島の極小規模校ということもあり，「考え，議論する」の中の「議論」を行うことが難しい。今後は扱う内容によって，中学１年生から３年生，中学生１年生と小学校高学年（５・６年）といった組み合わせで授業を行うなどして，道徳授業の改善にさらに取り組んでいきたい。